

湯沢CS通信

令和5年11月21日 第65号

(発行) 湯沢市教育委員会
学校教育課 CS担当

今回は、十一月二日(木)に湯沢文化会館で行われたCS研修会の内容を中心に紹介します。

湯沢西小学校の実践発表より

湯沢西小学校は、「学校課題をとともに解決する学校運営協議会」と題して松野教頭先生が発表しました。学校運営協議会は協議するだけではなく、動く協議会を目指して活動していきます。具体的にはワールド・カフェ方式の熟議(テーマは「西小の子どもに付きたい力は?」

「あいさつ力を高めるには?」「読書好きの子どもを育てるために」や親子で参加ウォーキング&クリーンアップ事業・あいさつロードなどの活動を通して、委員が教員と一緒に学校の



登校中、元気に挨拶をする子どもたち

湯沢西小学校PTA事業
親子de参加
ウォーキング&クリーンアップ

(活動内容・目的)
スタート地点を決めて出発し、ゴール地点まで親子(ご家族・地域の方々)でウォーキングを楽しみながら地域の環境美化に貢献する。

日時/令和5年10月15日(日)小雨決行
※荒天、中止の場合は一斉メールでお知らせします。
午前8時を目途にゴール地点へ

ゴール地点から、飲み物と得々ターボーン(1世帯1枚)を受け取り解散になります。8時30分以降はゴールを撮影します。

〈ゴール地点〉 ※各ゴールにリーダーが常駐しています。

西小学区 ○西小学校
○湯沢市役所向かい噴水付近
○湯沢駅西口付近
○ハローワーク湯沢 後継駐車場付近

須川小学区 ○須川地区センター
○高松地区センター

三間小学区 ○旧三間小学校前
○三間駅付近

主催:湯沢西小学校PTA 保健体育課 協力:湯沢西小学校運営協議会・湯沢南中学校PTA
問い合わせはメールにて対応させていただきます。 yuzawanishi.pta@gmail.com PTA委員 寺田 健二

課題について話し合ったり、実際に動いたりした実践を発表しました。これらの取組の成果として、教員だけではなく保護者・地域住民が加わって学校課題解決に向けた話し合いが行われたこと、CSの理解が促進したこと、学校と保護者・地域の協働体制が確立したことなどが挙げられました。また、活動の予算を確保することや地域とのさらなる協働を模索することなどを課題として挙げました。



質問に答える
松野教頭先生

湯沢南中学校の実践発表より



発表する渡邊
教頭先生

湯沢南中学校は、CSとして実践してきたことをCSの基本構想図にある貢献・奉仕、共有・交流、支援・評価に沿って渡邊教頭先生が発表しました。

の活動として、湯沢市の地域行事である大名行列や各種音楽活動へ生徒が参加しました。共有・交流の活動では、小・中連携の視点から学校運営協議会の委員の協力を得て、湯沢西小学校で企画した親子で参加ウォーキング&クリーンアップに参加しました。支援・評価の活動では、学校運営協議会で協議された南中パンナ



南中パンナコッタの販売

コッタの製造・販売、そして、それを活用した養護老人ホームとの交流、モザイク(キヤップ) アートで湯沢を元気にする活動の紹介がありました。

湯沢南中学校では、委員の協力を得ながら持続可能なCSを目指して活動を継続していくそうです。



生徒が作成したモザイクアート

CSダイレクターの講話より

CSのよさを参加者全員で共有することにより、CSの推進に弾みがつくと考えて、今回の研修テーマを「コミュニティ・スクールのよさって何だろう」としました。そして、三校のワールド・カフェ方式の熟議に参加して私が捉えた本市のCSのよさを紹介しました。

本市のCSのよさとは

○学校課題の解決に向けて、教員だけではなく保護者、地域住民が参加した話し合い(具体的には学校運営協議会の熟議)が行われていること

○話し合った内容を受けて、学校で課題解決に向けた取組が行われていること

そして、この後一層CSを推進していくためにCSダイレクターは、CSのよさを捉え、それを各学校に広めていくこと、管理職の先生方には、学校運営協議会を活性化させることと学校運営協議会の内容を先生方に伝えること、教員は、学校運営協

議会に対してこれまでよりもう少し関心をもつことを提案しました。また、学校運営協議会委員の皆さんには、子どもたちのためにこれまでと同様にご尽力いただくとともに、学校の状況をより知っていただくために、例えばボランティア活動に参加していただくなど、学校にこれまで以上に足を運んでいただくことをお願いしました。

CSのよさ発見

私の捉えたCSのよさをもう一つ紹介します。

十月三十一日に湯沢北中学校の第三回学校運営協議会に参加しました。協議題は総合的な学習で行っている生き方講座の「講師の選定」でした。「昨年はこんな職業の講師だったので今年はこちらな職業の方の話を聞かせたい、その職業であれば私はこの人を知っている」などの意見が次々に出され、十人ほどの講師があつという間に決まりました。そして、講師への依頼は委員が分担して行うことになりました。

どの学校でも第一回の学校運営協議会で校長から学校運営の方針(その中には目指す児童・生徒像が含まれています)が示され、協議会で承認されているはずですが、委員の皆さんはおそらく校長が示した目指す生徒像を考慮しながら講師を選定していたのだと思います。校長の学校運営の方針の承認が形式的なものではなく実際に生きた形となって表れているのを感じました。また、講師の依頼を委員がすること、教員が生徒への指導に集中できることもよさの一つと捉えます。

